

検査内容変更のお知らせ

謹啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、下記検査項目におきまして、検査内容の変更をご案内いたします。

より良い検査サービスのご提供に努めてまいりますので、今後ともお引き立てのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

◆ 実施日

2022年12月19日(月) ご依頼分より

※上記実施日以前でも、変更後の内容にてご利用いただけますので、ご希望の際は該当検査ご依頼時にお知らせください。新依頼書への切り替えは、2023年1月末を目途に順次ご対応ください。

◆ 対象項目

検査項目名	項目コード
ネオアンチゲン解析 (追加データ解析 遺伝子変異解析)	1110
ネオアンチゲン解析 (追加データ解析 挿入・欠失変異)	1133
ネオアンチゲン解析 (追加データ解析 HLA クラス II 拘束性)	1134

◆ 変更内容

以下の検査項目につきまして、これまでは腫瘍組織（新鮮組織もしくは FFPE）および腫瘍細胞を用いたネオアンチゲン解析のみを対象としたオプション項目として実施していましたが、血液を用いたネオアンチゲン解析（「ネオアンチゲン解析 [血液] 」、2022 年 9 月開始）にも同様に対応いたします。

● ネオアンチゲン解析（追加データ解析 遺伝子変異解析）

ネオアンチゲン解析で取得したデータを利用して全遺伝子変異の情報を解析し、DNA ミスマッチ修復遺伝子変異の情報や、見つかった遺伝子変異に適応する分子標的薬候補を探索します。ネオアンチゲン解析の検査結果を利用し、データ解析を行います。

● ネオアンチゲン解析（追加データ解析 挿入・欠失変異）

挿入・欠失による遺伝子変異に由来するネオアンチゲンを予測します。通常の「ネオアンチゲン解析」では、アミノ酸置換を伴う塩基変異（SNV）を対象としているため、挿入・欠失変異に由来するネオアンチゲン候補が新たに見つかる可能性があります。

● ネオアンチゲン解析（追加データ解析 HLA クラス II 拘束性）

HLA クラス II（HLA-DR）拘束性のネオアンチゲンを予測します。HLA クラス II 拘束性ペプチドは、CTL やマクロファージ、NK 細胞を活性化させるヘルパー T 細胞を誘導する役割を持っています。

変更点

対応可能な検査項目（「検査案内」には明記なし）

【現】 ネオアンチゲン解析（項目コード 1100、対照検体なし 1101）
ネオアンチゲン解析 [FFPE]（項目コード 1135）

【新】 ネオアンチゲン解析（項目コード 1100、対照検体なし 1101）
ネオアンチゲン解析 [FFPE]（項目コード 1135）
ネオアンチゲン解析 [血液]（項目コード 1138）

※所要期間等、その他の事項には変更はありません。